九州大学学術情報リポジトリ
Kyushu University Institutional Repository

A Nationwide, Cross-sectional Survey on Unusual Sleep Postures and Sleep-disordered Breathing-related Symptoms in People with Down Syndrome

黒田, 裕美

https://hdl.handle.net/2324/1866261

出版情報：九州大学, 2017, 博士（看護学）, 課程博士
バージョン：
権利関係：やむを得ない事由により本文ファイル非公開（2）

KYUSHU UNIVERSITY

A Nationwide, Cross-sectional Survey on Unusual Sleep Postures and Sleep-disordered Breathing-related Symptoms in People with Down Syndrome

H. Kuroda, H. Sawatari, S. Ando, T. Ohkusa, A. Rahmawati, J. Ono,
M. Nishizaka, N. Hashiguchi, F. Matsuoka & A. Chishaki

ダウン症者における特異な睡眠体位と睡眠呼吸障害に関する全国調査

黒田裕美，澤渡浩之，安藤真一，大草知子，アニタラハマワティ，西坂麻里，
橋口暢子，松岡史生，樗木晶子

要旨

背景：ダウン症（Down Syndrome, DS）者の健康問題の１つに睡眠呼吸障害（Sleep Disordered Breathing, SDB）がある。また、DS 者は座臥位（leaning forward）や座位といった特異な睡眠体位で眠ることが報告されている。本研究の目的は DS 者における特異な睡眠体位や睡眠呼吸障害関連症状（いびき、無呼吸、夜間の覚醒、日中の異常な眠気）の実態を調査し、これらの関連を明らかにすることである。

方法：日本全国（21 都道府県）に住む 1149 名の DS 者を対象とし、質問紙による調査を実施した。質問紙は対象となる DS 者の養育者（親）が回答を記入した。質問紙の内容は対象者の基礎的属性、特異な睡眠体位及び睡眠呼吸障害関連症状の頻度などであった。

結果：特異な睡眠体位を有している DS 者は 1149 名中 483 名（42.0%） であった。特異な体位を有している者は無い者と比較して、有意に年齢が若く、筋緊張低下を有していた。特異な睡眠体位としては、全ての年齢群において座位より座臥位が多かった。特異な睡眠体位を有する DS 者は睡眠呼吸障害関連症状をより多く有していた。また、座位を示す者は座臥位がある者と比べ、睡眠呼吸障害関連症状をより多く有していた。いびき、無呼吸、夜間の覚醒の頻度はそれぞれ 73.6%、27.2%、58.2%であった。いびきは年齢が上がるにつれて増加した。無呼吸は男性、甲状腺機能低下症がある者で多く報告された。

結論：本研究の結果、特異な睡眠体位と睡眠呼吸障害関連症状は密接な関連があることが分かった。すなわち、特異な睡眠体位は睡眠呼吸障害の存在を示唆し、特異な睡眠体位を有する全ての DS 者に対して早期に専門医の受診を勧め、睡眠呼吸障害に対する精密な検査を行う必要があると考えられる。